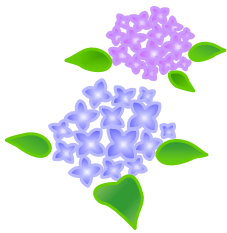


# 水車

学校教育目標：「瞳を輝かせ めあてをもって やりぬく金勝っ子」  
 めざす学校：あ**い**さつできる学校 い**の**ちを大切にする学校 う**つ**くしい学校  
 え**ん**顔あふれる学校 お**も**いやりのある学校

## 「金勝小の風物詩 —ツバメの巣作り真っ盛り—」

校長 川那部 隆徳



アジサイの花が、ちらほら咲き始める季節となりました。日中は、汗ばむくらい**の初夏の陽気が続き、夏へ向かっていることを実感**します。  
 先日は、学習参観・PTA総会・学級懇談会へのご参加ありがとうございました。保護者の皆さんに熱心に参観していただき、子どもたちも張り切って学習していました。お子さんのがんばりをたくさん誉めてあげてください。

さて、4月の中・下旬頃から、ツバメが校舎の軒下に巣作りを始め、田植えの時期にみるみる大きくなっていきました。その巣からヒナが顔をのぞかせるのは、いつ？ 今日か？ 明日か？ と子どもたちと楽しみにしています。

ツバメは北半球に広く生息し、春から夏にかけて暖かい東南アジアから日本にやってくる渡り鳥です。その移動距離は数千kmにも及びます。昔からツバメが家に巣を作ると縁起が良いとされ、軒下にわざわざツバメの通り道となる抜け穴を設けたり、ヒナが巣から落ちないように台を設けたりしている民家も多くありました。一日に数百匹もの昆虫を食べるツバメは「害虫を食べて農作物を守ってくれる益鳥」として、また人通りの多い場所から「商売繁盛」の象徴として大切にされてきました。ツバメにとっても人通りの多い場所は、カラスやネコ、ヘビなどの天敵からヒナを守ることに好都合です。このように、人とツバメは長年共存してきたわけです。



巣作りは、オスとメスが共同で行い、メスは5個ぐらいの卵を産んで2週間ほど卵を温めます。ヒナがかえると親鳥はひっきりなしにエサの昆虫を運んで子育てをします。そして、成長したヒナは3週間ほどで巣立っていくそうです。

ところが、人の生活様式や住宅環境の変化、巣の材料となる土の供給源である水田の減少などにより、ツバメの数は40年前の半分以上に減少しているという調査もあるそうです。

多くのツバメが校舎の軒下に巣作りをし、子育てをする様は、自然と人とかが調和した金勝の地にある本校ならではの風物詩といえるでしょう。先日、職員が、昇降口屋根裏の巣の下に糞除けの板を設置しました。子どもたちとともにヒナの成長を温かく見守り、そして、その姿に子どもたちの成長を重ねながら、地域を愛おしむ心情を育てていきたいと思ひます。地域、保護者の皆様のご理解、ご支援をよろしくお願ひします。